

平成 24 年度病害虫発生予察注意報（第 1 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

TEL 0736-64-2300

1. 病害虫名：イネ縞葉枯病

2. 対象作物：水稻

3. 発生地域：紀北地域

4. 発生予想量：多

5. 注意報発令の根拠

- (1) 和歌山市 3 地点およびかつらぎ町 1 地点におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、いずれも 10 %以上と前年に引き続き高かった（表 1）。これらの保毒虫率は、平成 3～12 年の平均（2.8～3.4 %、表 2）より高い。
- (2) 平成 23 年 7 月中旬に、紀北地域本田におけるイネ縞葉枯病の発生を調査したところ、44 ほ場中 11 ほ場（発生圃場率 25.0 %）で確認された。
- (3) 休閑田におけるヒメトビウンカの生息数は、4 月上旬の和歌山市で 8.7 頭（平年 8.5 頭）、紀の川市で 8.7 頭（平年 7.0 頭）と平年並である（表 3）。

表 1. ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率^{a)}

調査地点	平成24年 ^{b)}		平成23年 ^{c)}	
	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
和歌山市 小倉	108	15.7	197	12.2
和歌山市 川永	63	12.7	110	12.7
和歌山市 明王寺 ^{d)}	81	19.8	120	19.2
かつらぎ町 窪	63	15.9	110	12.7

a)検定方法：高比重ラテックス凝集反応法

b)調査日：平成24年4月6～12日

c)調査日：平成23年4月6～13日

d)昨年(平成23年)は和歌山市 平尾・明王寺で調査した。

表 2. ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移(平成3～12年)

(単位：%)

調査地点	平成 12年	平成 11年	平成 10年	平成 9年	平成 8年	平成 7年	平成 6年	平成 5年	平成 4年	平成 3年	平均
和歌山市小倉	0.6	2.0	2.3	4.7	0.0	3.0	—	7.2	—	—	2.8
かつらぎ町窪	—	2.4	2.0	2.3	—	6.6	3.4	2.0	3.0	5.1	3.4

注)ヒメトビウンカ採集および検定実施日は3月下旬～4月上旬。検定虫数が80頭以下の調査結果は除く。

検定方法：ラテックス凝集反応法

表3. 休閑田におけるヒメトビウンカの生息数(単位:頭)

調査時期		平成24年	平年
3月中下旬	和歌山市	0.3	7.6
	紀の川市	0.7	8.9
	かつらぎ町	4.7	1.7
4月上旬	和歌山市	8.7	8.5
	紀の川市	8.7	7.0
	かつらぎ町	3.0	6.1

注)すくい取り調査(捕虫網20回振り)

6. 防除対策

- (1) イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。
- (2) 窒素過多はイネ縞葉枯病の発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (3) 田植え時はヒメトビウンカに効果がある箱施薬剤を処理する。
- (4) 第1世代成虫は6月下旬頃に水田へ飛来し、第2世代幼虫の発生最盛期は7月上旬と考えられることから、前年にイネ縞葉枯病の発生が認められた地域では、この時期の幼虫を対象に追加防除を行う。
- (5) 本県の水稲奨励品種のうち、ハナエチゼン、イクヒカリ、キヌヒカリ、きぬむすめはイネ縞葉枯病に罹病しやすいので、特に注意する。
- (6) イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカは、休閑田やほ場周辺のイネ科雑草で越冬するので、冬期水田の耕起を励行する。
- (7) 農薬については、最新の登録情報 (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm 農林水産消費安全技術センター HP 農薬登録情報提供システム) を参照し、適正に使用する。